

フイールド風

(現場)からの風

宮田守男

新年を迎え、歳が1つ増えた。「若い頃、期待を抱いた歳の積み重ねも、60歳を過ぎたころから不安が増してきた」との話聞く機

会が増えている。10代・20代の頃に60歳以上は高齢と感じた年齢になっている自分が、今の若い人にとどの様に見られているのか気になってしまふ。だが周囲では60歳以上の皆さんの活動は美に若々しく伝わってくる。事実、平均寿命が延びた分、実年齢も伸びたとの声もある。最近よく聞く「年齢8掛け論」。実際の年齢に8掛けして自分の年齢を算出する考え方だ。還暦を迎えた時、「60歳だと嘆かず、まだ48歳、これからですよ」、「80歳だと老けすぎ、

64歳だと考えると全く別の生活が楽しめま

す」実に楽しい考え方ではないだろうか。総務省の人口推計で、元目時点の新成人は125万人との推計を発表した。更に1970年の246万人の

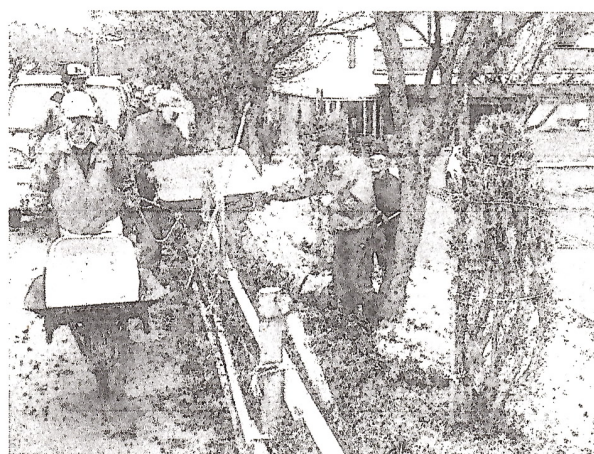
して書かれた「平成三十年」だ。小説家や作家としても著名だが小淵内閣では経済企画庁長官に就任した経済のエキスパートでもある。著書「団塊の世代」の続編ともいえる内容でバブル経済後の日本

恐ろしく的中している多くの内容は、少子化・晩婚化・インターネット社会の到来・住宅新築件数の大幅な減・タクシー運転手やビル清掃員は高齢者の就職先に。など現在ではかなり当たり前の社

会を執筆当時にも、今後当たりそうな記述が多岐にわたっていることが心配になる。今年最初の取引となる大発会では、「アップルショック」が直撃し、東京株式市場の日経平均株価は戦後3番目になる急落、特に個人投資家に大打撃を与えた。また今後の動向によっては、日本株式で多くを運用する年金原資への影響も心配されている。今後も株価や円相場の乱高下は避ける事ができないだろうが、世界経済の安定化を祈るばかりだ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

年齢8掛け論で自分の年齢を考える生き方を実践してみませんか

経済の推移を描いた予想小説だ。物語は産業情報省勤務の職員視点から描かれ、旧態依然として改革におよび腰で問題を先送りにする政府の無策ぶりを描き、徐々に衰退する日本経済を克明に予想。



ボランティア活動に積極的に取り組む白馬グループのメンバーは、いつも若々しい